

学校だより

【第1号】令和3年4月26日発行

<群馬県立しらがね特別支援学校通信>



だれにとっても居心地の よい学校に

群馬県立しらがね特別支援学校 校長 清田 和泉

今年度、校長として着任いたしました清田和泉（きよたいずみ）と申します。前任校は群馬県立沼田特別支援学校です。特別支援学校勤務は分校を含めて5校目ですが、今まではずっと北毛地域の学校でしたので、前橋・伊勢崎地域の学校は初めてです。学園の皆様、保護者の皆様、地域の皆様と手を取り合って、だれにとっても居心地がよく、子どもたちがのびのびと成長できる学校づくりをして参る所存ですので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

昨年度末の人事異動で、26名の方が転退職されました。今まで本校で子どもたちのために熱心に御尽力された皆様に心から敬意を表するとともに、新たに転入した職員と継続の職員とでその志を引き継ぎ、更によりよい学校へと高めていきたいと思ひます。

「居心地のよさ」というのは、その場においてほっとできる状態であり、心が安定した状態です。脳からは、幸せホルモンが出ているのかもしれない。「居心地のよい空間」をつくるためには、どのようにしたらよいのでしょうか。

私は、まずは「和顔愛語」が大切だと思ひています。「わげんあいご・わがんあいご」と読み、仏教に由来する言葉だそうです。「和やかな笑顔と、思いやりのある話し方で人に接すること」を言い、「和顔愛語」を心掛けることが、“心を乱さず、平常心を保つコツ”でもあるそうです。イライラしたとき、嫌なことがあったとき、自分が辛いときこそ、まず自分から笑顔と優しい言葉で周りの人に接する姿勢が「和顔愛語」だそうです。

皆で「和顔愛語」を実践し、しらがね特別支援学校が和やかな笑顔と思いやりのある言葉・空気であふれ、子どもたちが日々を元気にのびのびと過ごしていけることを心から願ひています。

令和3年度、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

～入学おめでとうござひます～

令和3年度の入学式が、4月8日火曜日に、体育館において行われました。入学生は、中学部2名、高等部22名です。自分の名前を呼ばれると、皆ははっきりと返事をして立ち上がり、胸を張って起立していました。高等部代表の生徒が「誓ひの言葉」をしっかりと述べ、とても頼もしく思われました。ようこそ「しらがね」へ。

